

令和6年度 白川郷学園 特別支援研究構想

研究主題

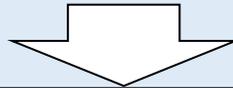
学びのひとりだちを目指す授業の創造

特別支援学級で願う子どもの姿

めあてをもって生活や学習に取り組む、自分と仲間の意見を調整し、課題を解決したり、協力して活動したりする姿

児童・生徒の実態

- A 児 ○興味関心のあることに、意欲的に学習に取り組むことができる。
▲疲れやすく、集中力が続きにくい。
- B 児 ○活動の見通しがもてると、集中して学習に取り組むことができる。
▲失敗や上手くできないもどかしさから、学習の意欲が下がることもある。
- C 児 ○活動の見通しがもてると、主体的に学習に取り組むことができる。
▲自分の好きなことやものがあると、それを優先して、活動に集中することが難しくなる。
- D 児 ○学習の流れを覚えることで、自信をもって学習に取り組むことができる。
▲「ちょっとできないな。」と感じると、課題解決をあきらめてしまうことがある。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・活動の見通しがもてるように、本時の流れを視覚化する。
- ・本時のめあてがもてるように、前時の姿のよさや課題を視覚的に示したり、振り返りを確認したりする。

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・集中が途切れないように、活動の終了時間を視覚的に示す。
- ・児童同士の意見の対立や「できない」「わからない」という場面に出会ったとき、自分の思いを調整したり、仲間と協力したりするよう、声をかけたり、児童と一緒に考えたりする。

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・本時の終末や学期の最後の生活単元学習の時間に振り返りの時間を位置付ける。
- ・個の変容や学び方の価値付けをする。

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実